

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3247号 2016.9.9 発行

社説：テレワーク 「新しい働き方」への期待

西日本新聞 2016年09月09日

最近よく耳にするテレワークとは、英語の「t e l e（遠距離の）」と「w o r k（働く）」を組み合わせた造語だ。

パソコンやインターネットなどの情報通信技術（I C T）を最大限活用し、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方を指す。

テレワークの代表例とされる在宅勤務を導入したり、適用を広げたりする民間企業が増えてきた。

トヨタ自動車は制度を大幅に拡充する方向で労働組合と協議している。子育てや親の介護が必要な社員を中心に、常時数百人規模の活用を想定している。週1日2時間の出勤義務付け以外は自宅で働けるようにするという。

長時間勤務が常態化している銀行業界でも、三菱東京U F J銀行が本店の企画部門などに所属する計約4千人を対象に導入した。

子育てや介護と仕事を両立できる職場環境づくりを進め、離職防止や生産性の向上を目指す。長時間労働の是正や多様な人材活用にもつながる。期待したい。

テレワークは1970年代、エネルギー危機への対応とマイカー通勤による大気汚染の緩和を目的に米国のロサンゼルス周辺で始まったのが起こりといわれる。

その後、パソコンの普及や女性の社会進出などで改めて脚光を浴び、欧米で定着していく。米国では89年に発生したサンフランシスコ地震など災害の教訓から「リスク分散対策」としても有効な方策と評価されるようになった。

日本では家庭への高速回線が普及し、少子高齢化も本格化した2000年代に入って広がってきた。高齢者や障害者の就業機会拡大などの効果も見込める。九州では佐賀県庁が08年に他の都道府県に先駆けて在宅勤務制度を導入した。官公庁でも検討してほしい。

在宅勤務は職場外でのパソコン利用などによる情報流出の危険性が伴う。労務管理や人事評価が難しいという問題も抱えている。

こうした課題を職場の現実に即して克服しながら、少子高齢社会に対応できる「新しい働き方」の一つとして根付かせたい。

社説：待機児童対策／「働きたい」をどう生かす

神戸新聞 2016年9月9日

認可保育所などに入所を希望しても入れない待機児童が、4月1日時点の厚生労働省の集計で2万3553人に上った。働く女性の増加などで昨年より386人多くなり、2年連続で増加した。兵庫は108人増の1050人だった。

保育所整備で定員は前年より10万3千人増えて263万人となり、申込者の256万人を上回った。しかし、需要の多い都市部では不足が目立つ。安倍政権は2017年度末までに「待機児童ゼロ」を目指す、実現は容易ではない。

特定の保育所のみを希望、保護者が育児休業中一などの理由で集計に含まれない「潜在的な待機児童」も初めて公表された。全国で6万7千人、兵庫は2465人だった。

待機児童の定義は自治体ごとに異なるため、厚労省は定義を統一する方針だ。実態を明らかにして有効な対策につなげたい。

兵庫は、県内41市町のうち15市町で待機児童がいた。最多は明石市の295人で、昨年より139人増え、西宮市、加古川市、神戸市が続いた。神戸市はこの1年で定員を868人増やしたが、需要がそれを上回った。同市は潜在的な待機児童も686人おり、県内最多だった。

保育所整備が進むことで、潜在的な保育ニーズを掘り起こした面もある。労働人口が減少する中、「子どもを安心して預けられる場所があれば働きたい」という女性たちの就労意欲を、社会が生かせるかどうかが問われている。

厚労省は新たな対策として、1年間の育児休業後の入園を保障する「入園予約制」の導入を促す。年度途中でも入園できるため、4月入園のために育児休業を切り上げる必要がなくなり、安心して仕事に復帰してもらう狙いがある。ただ、保育所が足りない現状では対象者が限られてしまう懸念がある。

受け皿拡大には、国や自治体だけでなく、企業の取り組みも欠かせない。企業の勤務時間に沿った休日や夜間などの保育や、複数の企業が共同利用できる保育施設など、企業主導型の保育にも力を入れたい。

保育士の処遇改善も不可欠だ。保育士が働きやすい条件を整えなければ、保育定員は増えず、女性の労働力を生かすことは難しい。受け皿整備と共に保育の質を確保することが前提となる。

社説 「貧困」への中傷 子供の人権を脅かすな

毎日新聞 2016年9月9日

ひとり親家庭で育った女子高校生が経済的理由で専門学校への進学をあきらめたことをNHKがニュース番組で紹介したところ、ネットに「貧困ではない」「捏造(ねつぞう)だ」と中傷する書き込みが相次いでいる。

今は深刻な子供の貧困問題に国を挙げて取り組まなければならないときだ。それなのに自らの困窮を語った高校生を袋だたきにするような言動は、卑劣極まりない。まず貧困の実態をきちんと理解すべきである。

番組は、女子高生が冷房のない部屋で暮らし、パソコンが買えないためキーボードだけ買ってもらって練習していることなどを伝えた。

ところが、「部屋にアニメグッズがたくさんある」「1000円以上のランチを食べたとツイートしている」「映画を見に行った」などの書き込みがネットにあふれ、生徒の容姿の中傷や自宅の写真までアップされた。

自民党の片山さつき参院議員もツイッターで「チケットやグッズ、ランチ節約すれば中古のパソコンは十分買えるでしょう」と書いた。

日本の相対的貧困率は16.1%(2012年)で、先進諸国では高い水準だ。相対的貧困とは、全世帯を所得順に並べ、その真ん中に位置する世帯の年収の半分(12年は122万円)に満たない人の割合を指す。必ずしも食べ物や住まいがないわけではないが、子供たちの成育に深刻な影響を与え、社会からの孤立や排除につながるのが相対的貧困だ。

お金のかかる部活動ができない。修学旅行や進学をあきらめる。ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)でつながっていないと仲間はずれにされるから食事や教育費を犠牲にしてスマートフォンを持っている。そんな生徒は多い。

各国とも貧富の差を縮め、格差を固定させないように税や社会保険で所得の再分配を図っているが、日本は再分配が若年層にあまり効果をもたらしていないと指摘される。

特に、ひとり親が非正規雇用で働き子供を養っている家庭の貧困率の高さは突出している。

複数の仕事を掛け持ちでこなしているため、子供の世話をする余裕がない親は多い。自我が未発達の子供にとっては将来自立するための土台ができないまま育つことにもなる。

そういう子供に自己責任を求めること自体が無理だろう。

生活保護の不正請求をたたくような感覚で子供の貧困に険しい目をむけるのは間違っている。子供たちはますます声を上げられず、孤立したまま困窮を極めていく。

そうした現実に対して理解を広げる必要がある。すさんだ社会にはしてはならない。

屁理屈、反抗、いたずら...イライラ育児 聞かぬなら聞くまで待とう

東京新聞 2016年9月9日

子どもが屁理屈を言ったり反抗的な態度を取ったりすると、親はついイライラして叱りがちだ。ほめて育てることが大事だと分かっている、いたずらや生意気さばかりが目について、ほめるところも見当たらない...。怒ってばかりの子育てから抜け出すにはどうしたらいいだろうか。(細川暁子)

「叱ることは、子どもに否定的な視線を注ぐこと。かえって反抗的な態度が増えることもあり逆効果です」

心身障害児総合医療療育センター(東京都板橋区)の外來療育部長で小児科医の米山明さんは、こうアドバイスする。反抗的な態度を繰り返す場合、子どもに怒りをぶついたりするのをいったんやめ、好ましい行動が出るのを待つことが大事という。

例えば、親が机で仕事をしている時に、幼児期の子どもが「話を聞いて」と付きまとい、忙しい親が相手をしてくれるのを待つことができずに「ばか」と口答えしたとする。それに対して親が叱ると、子どもはさらに反抗してやりとりが続き、悪循環になるだけだ。

「親は体の向きを変えて子と視線を合わさず、怒っている様子を見せないようにして、待つことが効果的です」。子どもが落ち着いて一人で遊び始めたら、待たせたことをほめるようにする。ほめて肯定的な視線を子どもに注ぐことで、子どもは認められていると感じ、反抗的な態度も自然に減っていくという。

おもちゃを片付けない子に対しては、例えば、「あと三回やったら片付けようね」と話しかけて理解させたり、「車を片付ける? 積み木を片付ける?」と子に選択させたりして、指示に従えたらほめてあげる。

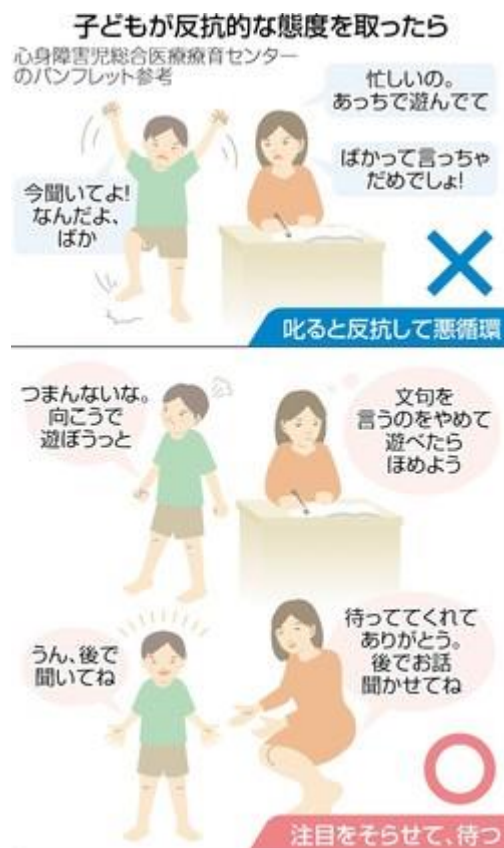
反抗的な子に、親は「ほめることが何もない」と感じるものだ。だが米山さんは「100%ではなく25%できた時点でほめるのがポイント」と強調する。100%を目指すと、途中で遊んだり、うまくできなくて泣いたりして、結局ほめないまま終わってしまうことが多い。

例えば一人でパジャマに着替える際、パジャマを持った時点や、ボタンをかけようと努力している時など、ささいなことができたならほめるよう心掛ける。

◆もしかして発達障害...? 迷わず専門家に相談を

親が何度注意しても行動が改まらなかつたり、他の子が普通にできることができなかつたりする子の中には、発達障害が隠れていることがある。

発達障害は、脳機能に偏りがあることが原因とされ、じっとしていられなかつたり、衝動のコントロールが難しかったりする注意欠陥多動性障害(ADHD)、コミュニケーション



ンが苦手な自閉症やアスペルガー症候群、学習障害（LD）などがある。発達障害の場合、親は育てにくさを感じて悩むことが多いが、米山さんは「親のみで抱え込まず、専門家に相談することが大事」と話す。

2005年に発達障害者支援法が施行されて以降、子どもの行動を心配して発達障害を疑う保護者からの相談は増加傾向にある。同センターでも、診断を受けるには1年待ちだ。

都道府県や政令市は、発達障害者支援センターを設置しており、臨床心理士や言語聴覚士、作業療法士らが子どもの様子を観察しながら、保護者に子育てのアドバイスをしてくれる。小学校に入ってから、教育支援センターやスクールカウンセラーにも相談できる。

統合失調症女性の日常... 11日に上映会

読売新聞 2016年09月09日

統合失調症などを患う人たちが東京都世田谷区の藍染め工房で働く姿を描いたドキュメンタリー映画「あい〜精神障害と向き合って〜」（宮崎信恵監督）の上映会が11日、奈良市三条宮前町の「なら100年会館」で開かれる。

統合失調症で、藍染め作品や組みひもなどを作っているナカジマアユミさんを中心に、彼女を取り巻く仲間や社会を描いた。ナレーションは俳優・緒形直人さん。全国に推計320万人いる精神障害者への理解を深め、病気で苦しむ人たちに勇気を与えようと企画され、全国各地で上映会が開かれている。主題歌はナカジマさんが作詞した。

当日はナカジマさんや宮崎監督らが舞台挨拶し、ソプラノ歌手の岡田由美子さん（奈良市）が主題歌を歌う。午前10時半と午後2時の2回上演。会場は885席。上映協力券として大人1000円。高校生以下と障害者手帳持参の人は無料。

問い合わせは午後1～6時、上谷勝さん（090・8939・8110）。

外国人の救急対応迅速に 支援ボード改訂、五輪見据え

産経新聞 2016年9月8日



改訂された「救急用コミュニケーション支援ボード」 = 8日午後、東京都千代田区
東京消防庁は8日、日本語に不慣れた外国人らを救急搬送する際に使う「救急用コミュニケーション支援ボード」を公開した。痛みを訴える様子などを描いた複数のイラストから

自身の症状を選んでもらい、救急隊員が迅速に対応できるようにする。2020年の東京五輪を見据えた措置で、11年から使っていたボードを改訂。順次、消防車や救急車に載せていく。

同庁によると、ボードはA4サイズで、医療や福祉を支援する明治安田こころの健康財団が作成。イラストはこれまでの「熱がある」や「痛い」といった症状を表す8項目に、「けいれんする」と「気を失う」の二つを追加。説明文も従来の日本語、英語、中国語、韓国語に、スペイン語とポルトガル語を加えた。言葉を使えない障害者にも示すという。

パラ出場禁止のロシア、国内で独自の競技大会 読売新聞 2016年09月08日

【モスクワ=畑武尊】ロシアは7日、夏季パラリンピック・リオデジャネイロ大会の開幕に合わせ、ロシア人障害者による独自の競技大会を国内で開催した。

タス通信などが伝えた。国ぐるみのドーピングが発覚し、リオ大会に出場禁止になったロシア選手団を救済するためとみられる。

大会は9日まで3日間の予定で、陸上や柔道など18競技で263選手が参加する。ムトコ・スポーツ相はモスクワで行われた開会式で「多くの国際団体は国際パラリンピック委員会（IPC）の決定を支持していない」と述べ、改めて出場禁止処分を批判した。

IPCは8月上旬、ロシアの全選手のパラリンピック出場資格を停止した。ロシアのスポーツ専門チャンネルはリオ大会の放映を中止し、独自の国内大会の模様を放映するという。ロシアは前回のロンドン大会で、中国に次ぐ36個の金メダルを獲得していた。

【相模原19人殺傷】薬物対策 意見付けず 医療機関提出の退院書類

産経新聞 2016年9月8日

「津久井やまゆり園」の献花台の前で手を合わせる人=8月26日午後、相模原市緑区（伴龍二撮影）

相模原市の障害者施設で19人が刺殺された事件で、植松聖（さとし）容疑者（26）=殺人容疑で再逮捕=の措置入院が解除されて退院する際、医療機関側が同市に提出した書類に薬物使用への指導を求める意見がなかったことが8日、厚生労働省への取材で分かった。同日開かれた、再発防止策などを話し合う厚労省検討チーム（非公開）の第4回会合で報告された。検討チームはこの点を含め、病院や市の対応などを議論、来週にも中間報告をまとめる。



植松容疑者は2月19日、他人を害する恐れがあるとして緊急措置入院。尿検査で大麻の陽性反応があり、「大麻精神病」などと診断されたため、同22日に措置入院の手続きが取られた。3月2日に医師の判断に基づき、退院した。

精神保健福祉法では措置入院患者の退院に際し、医療機関から自治体に対し、症状がなくなったことを示す「症状消退届」の提出を義務付けている。植松容疑者の退院の際も書面は提出されたが、今後の訪問指導や障害福祉サービスの活用方法に関する意見など、自由記載欄への付記はなかった。厚労省担当者は「薬物を使用させないための対策が記されていれば、市職員の注意喚起になった可能性もある」としている。

これまでの検討チームの議論では、植松容疑者の入退院の判断については「標準的な対応だった」という意見で一致。ただ、退院の際に市職員や家族らを含めた面談の必要性などを指摘する意見もあり、中間報告に課題として盛り込まれる見通し。

九大が自閉症のマウスを作製、治療薬の開発に期待 朝日新聞 2016年9月8日

コミュニケーション行動が少ないなど自閉症の特徴を示すマウスを、九州大の中山敬一

教授らの研究グループが遺伝子を操作して作った。自閉症になる仕組みの解明や治療薬の開発などに役立つそうだ。8日付の英科学誌ネイチャーに発表した。

研究グループは自閉症の人の大規模な遺伝子解析でCHD8という遺伝子に変異している人がいることに注目。この遺伝子の働きが半分になるマウスを遺伝子操作で作製したところ、ほかのマウスのにおいをかいだり追いかけたりするコミュニケーション行動が減り、不安を感じやすくなるなどした。

胎児期の神経発達障害が自閉症の原因だとされている。研究グループがこのマウスを使ってCHD8の働きを調べると、神経の元になる細胞から神経細胞への発達を抑えるRESTという遺伝子の働きを抑制する役割をしていることがわかった。研究グループは、CHD8に変異が起きることでRESTの働きが活性化して、神経の発達に何らかの影響が出たとみている。

中山教授は「RESTの働きを抑えるような薬剤の開発が考えられ、自閉症の治療薬になる可能性がある」と話している。(瀬川茂子)



日本詩人クラブ新人賞受賞 川崎市在住の詩人・颯木あやこさん

東京新聞 2016年9月9日

日本詩人クラブ新人賞の受賞作「七番目の鉱石」を手にする颯木あやこさん。右下は新人賞のトロフィー＝川崎市麻生区で

川崎市麻生区在住の詩人、颯木(さつき)あやこさんが10日、自らの詩集「七番目の鉱石」が今春、第26回日本詩人クラブ新人賞を受賞したことを記念し、都内で講演する。颯木さんは「読者から好きな詩編を知らせてくれる手紙も多く届く。作品が評価されてうれしい」と話している。(山本哲正)

受賞作は思潮社から出版された自身の三作目。三作通じて「生と死」がテーマだが、散文的に長い文章だった前作に比べ、今作は無駄な言葉を排し、リズム、音楽性が際立った。知人のピアニストと共演する朗読会を開いていることが作風の変化につながったという。受賞に際しては「黒曜石」「鉄のコウモリ」といった硬質な表現も加わり、言葉が本来持つ響きを感じさせるなどと評価された。

颯木さんは、父親がフルート奏者で母親はピアニスト。三歳から十五歳までピアノを習い「早くから音楽に親しんだことも、私の詩のリズムに役立ったと思う」と振り返る。

詩との出会いは小学校低学年のころ。心にたまった思いなどを書いた詩を担当が受け止めてくれたため、「詩は安らげるものだ」と好きになった。

中学、高校と文芸部で詩作を続けたが、一時期「目に見える形で人の役に立ちたい」と考え、上智大文学部社会福祉学科(当時)に進んだ。卒業後は障害者のグループホームや就労支援施設などで働いた。

ある日、行方が分からなくなった入所者を捜して見つけ「どこへ行くの」と尋ねると「仕事に行かないと」と答えたのが印象に残る。「勤勉な人なのだと分かりました。どんな人にも奥行きがあり、それをふまえて接することが大切だと知った」

経済的な尺度や効率性だけでは語れない魅力が人にはあると実感し、十年ほど前、同じような魅力を覚える詩の世界に戻った。だから、七月に起きた相模原の障害者殺傷事件にはショックを受けたという。

野辺に咲く花や屋根をたたく雨などに「存在そのものが喜び、驚き」と価値を見だし、自身の言葉で詩に表現してきた颯木さん。「詩には、命や人間性を活性化させる新鮮な感覚がある」と話している。

十日の講演は、午後二時から、東京都目黒区駒場三の八の一、東京大学駒場キャンパス一八号館ホールで開かれる日本詩人クラブ例会で行われる。一般五百円。問い合わせは、

日本詩人クラブ＝電03（3962）6041＝へ。

また、十月三十日午後二時から、同杉並区阿佐谷南一の三五の二三、ライブ小屋ネクス
トサンデーで、受賞記念の朗読会がある。二千五百円とワンドリンク代が必要。予約制。
問い合わせは、颯木さんにメール＝ayascha1223@kiu.biglobe.ne.jp＝で。

<さつき・あやこ> 1973年旧西ドイツ・ベルリン生まれ。「歷程」同人、日本現代
詩人会会員。2009年に詩と創造奨励賞受賞。詩集に「やさしい窓口」（09年、土曜美
術社出版販売）、「うす青い器は傾く」（12年、思潮社）。

市区町村の9割超で解消＝個人番号カードの交付遅れー総務省

時事通信 2016年9月8日

総務省は8日、社会保障と税の共通番号（マイナンバー）制度で使う個人番号カードの
交付の遅れが、7月末時点で全体の94.3%に当たる1641市区町村で解消したと発
表した。全市区町村が11月末までに、カードの受け取りに関する通知書を住民の交付申
請から1カ月以内に発送できるようになる見通し。個人カードをめぐるっては、カードを作
製するシステムの不具合などにより、住民への交付が停滞。申請から交付まで数カ月を要
するケースが相次いでいた。

大阪府収支不足180億円減、来年度見込み 景気回復で法人税収増

読売新聞 2016年09月08日

大阪府は8日、2017年度の収支不足見込み額が今年2月時点よりも約180億円少
ない560億円で縮小するとの試算を公表した。景気回復による法人税収の増加などが要
因で、不足分を補う財政調整基金が17年度に底をつく事態は回避できるとしている。

府によると、2月の試算では、税収の伸び悩みや社会保障費の増加などで、17年度に
740億円の収支不足が見込まれる一方、同基金は前年に大きく取り崩して544億円し
か残らないため、底をつく可能性があるとしていた。しかし、17年度の法人事業税や地
方消費税などが当初の想定より約40億円の増収見込みとなるほか、長期金利の低下で府
債の利払いが減少して収支が改善。15年度と同基金の取り崩し額も378億円から30
億円に減り、16年度末の基金残高は914億円を確保する見通しになった。ただ、18、
19年度も500億円規模の収支不足が見込まれ、厳しい財政状況は変わらない。府は1
9年度までの3年間に、所有資産の売却や府立病院機構の運営費負担金の削減といった歳
入・歳出の見直しで計80億円を捻出するなど、収支改善に取り組むとした。

風俗店の待機部屋で生活相談 貧困支援の「風テラス」

福祉新聞 2016年09月09日編集部

相談にのる徳田さん（左）と及川さん（右）

性産業で働く女性を支援する「風テラス」が
注目を浴びている。ソーシャルワーカーと弁護
士がタッグを組み、風俗店の待機部屋で月に1
回、無料で生活相談に応じ、関係機関にもつな
げる。相談の中身は障害や病気、借金などさま
ざま、中には社会的に排除された女性もいる
という。支援者らは「男性の貧困は路上、女性



の貧困は待機部屋に現れる」と口にする。

待機部屋は居場所

東京のJR池袋駅からほど近いマンションの1室に風俗店「池袋おかあさん」の待機部

屋はある。壁には「本番行為一切禁止。発覚次第即クビ」の文字が貼ってある。

社会福祉士と精神保健福祉士の資格を持ち独立型の「P a n d A社会福祉士事務所」を運営する及川博文さんと、弁護士の徳田玲亜さんが、小さな机を挟んで女性と向かい合った。「今日はよろしくお願ひしますね」。及川さんが明るく語りかけると、女性は「はい」と小さくつぶやいた。

40代後半というこの女性は、2015年秋に入店。しかしうつ病で外出すらできず、半年で数回しか出勤していなかった。不眠も訴えながら「今は両親の年金と、自分の貯金を崩して暮らしています」とうつむいた。

そのうち女性はせきを切ったようにさまざまな悩みを語り出した。及川さんらは話を受け止めた上で、障害者手帳や自立支援医療、地域活動支援センターの存在などを伝えた。

「もどかしい状況を少しでもよくしたいですね」。30分ほどの面接を終えて及川さんがそう話すと、女性は「また来ます」と少し表情が明るくなった。

風テラスは、一般社団法人「ホワイトハンズ」(坂爪真吾代表)が呼び掛け、15年秋から月1回で活動を開始。誘いに応じたソーシャルワーカーや弁護士5人が、専門性を生かして相談にのる。

現在2社にかかわっており、支援した女性は延べ50人。徳田弁護士は「性産業関係だから特別な相談内容というわけではない。仕事を隠さずに相談でき、問題の深刻化を防げることに意義がある」と話す。

支援は、性産業からの脱却だけを目指していないのも特徴だ。「待機部屋はコミュニティーであり、社会的な居場所になっている。無理やり辞めさせて、収入を断っても問題は解決しない」と及川さんは強調する。

福祉へのアクセス

風俗店は、なぜ風テラスの支援を受け入れているのか。

「おかあさん」の齋藤明典社長は「普通の会社員以上に稼ぐ自立した女性もいるが、半数以上はメンタル面に問題がある。しかし福祉の素人である我々には解決するすべがない」と理由を明かす。

同店には40~70代の女性が100人ほど在籍しており、兼業も多い。平均月収は約18万円程度という。

面接では応募の動機だけでなく、生活状況を詳しく聞く。時には3時間以上かけて、収入状況や家賃、光熱費、既往歴までヒアリング。例えば、携帯電話代などが高すぎる際は徹底的に原因を洗い出し、改善の提案までする。

また齋藤社長はこれまで、弁護士の紹介や市役所の手続き同行などもしてきた。ある意味、課題を抱える女性へ寄り添うインフォーマルな支援とも言える。

ただ、齋藤社長は「風俗店が女性のセーフティーネットだとは口が裂けても言えない」と言い切る。「女性が一生、性産業で働くことを肯定はしない。しかし、女性が働くために生活をサポートするのはビジネスとして当然だ」と話す。

警察庁によると、15年時点で届け出のある性風俗店は全国に2万1620店。働く女性は30万人以上という試算もあり、齋藤社長は「どの風俗店でも女性の生活支援は課題になっているのではないか」と推察する。

風テラスは今後、さまざまな協力団体を増やしながら「本番行為など法律違反をしていない」「反社会的勢力との関係がない」などを条件に支援する店を広げたい考えだ。

坂爪代表は「性産業の存在は社会的に公認されないが、現実として従事する女性はいなくなるならない。その前提に立ち、福祉制度のアクセシビリティを高める活動を続けたい」と話している。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

